- ① 研究開発等の基礎的な取り組みは引き続き順調に行われている。
- ② 年齢、地域等による利用格差は依然あるものの利用者数は全体として拡大傾向にある。
- ③ 流通データ量は飛躍的に拡大している。
- ④ 安全性の面については、迷惑通信被害率の増加に伴いセキュリティ対策率もあがってきている。他方、その対策については、特に一般家庭における対策が不十分といえる。

我が国のインターネットの概観

～ 11の統計で見るインターネットの姿 ～

セキュリティ

⑪利用者脆弱性の状況

ウイルスチェックソフト導入
(H15年-H16年)^{注6}
世帯: 32.0%→35.9%
企業: 72.7%→81.0%

⑩迷惑通信の状況

迷惑メール受信経験 (H15年-H16年)^{注6}
PC19.1%→22.6% : 携帯電話64.3%→48.9%
ウイルス被害経験 (H15年-H16年)^{注6}
PC21.5%→28.1% : 携帯電話0.9%→0.9%

ネットワーク基盤

⑦国際トラフィック

海外とのトラフィック交換(H17年5月)^{注8}
国内から海外への流出トラフィック量より
海外から国内への流入トラフィック量の方が
多い傾向

⑥トラフィック

ブロードバンドのトラフィック総量
(H16年11月-H17年5月)^{注7}
324Gbps→472Gbps
<半年で約1.5倍>

⑤インターネット利用状況

インターネット利用者
(H15年-H16年)^{注6}
7,730万人→7,948万人
【6歳以上人口の69.4%】
<5年で約2.9倍>

⑧コンテンツ情報量

JPドメインのWebデータ量(H16年2月)^{注9}
13,609ギガバイト
【公共図書館4館分に相当】
<4年で約6.1倍>

⑨インターネット利用格差

世代別利用率(H15年-H16年)^{注6}
30代90.4%→90.5% : 60才以上21.6%→26.0%
都市規模別利用率(H15年-H16年)^{注6}
特別区等75.6%→78.2% : 町・村58.0%→56.9%

①研究開発費投入状況

情報通信分野研究開発費
(H15年度-H16年度)^{注1}
2兆4,921億円→2兆5,926億円
【研究開発費全体の約14.8%→15.3%】
<5年で約1.5倍>

④IPアドレスの割当状況

IPv4の割当て(H17年12月)^{注4}
日本6.43% : 米国59.50%
IPv6の割当て(H17年6月)^{注5}
日本78件 : 米国141件

②特許登録状況

情報通信分野の特許登録件数(H15年-H16年)^{注2}
日本: 17,703件→18,550件
米国: 39,541件→33,056件
欧州: 8,103件→5,666件
【米国の約56%、欧州の3倍以上】

③日本の標準化貢献度

日本人著者数割合(H17年11月現在)^{注3}
IETFのRFC: 1.9%
W3CのRecommendation: 2.7%

ガバナンス

注1: 科学技術研究調査
注2: 重点8分野の特許出願状況
注3: 情報通信政策研究所調査
注4: BGP Routing Table Analysis Reports
注5: RIPE NCCより総務省作成
注6: 通信利用動向調査
注7、8: 総務省資料
注9: 情報通信政策研究所調査